

令和4年度 事業計画

基本理念

『鹿寿苑は

まごころのこもったサービスと

安心して暮らせる施設を目指します。』

「気づきと行動」

「責任」

「地域交流」

目指す目標

「気づきと行動」…一人ひとりの価値観を尊重したサービスの提供

「責任」…社会的責任と資質の向上

「地域交流」…地域から親しまれる施設

基本理念

鹿寿苑は、まごころのこもったサービスと安心して暮らせる施設を目指します。
「気づきと行動」「責任」「地域交流」

目指す目標

1 「気づきと行動」
一人ひとりの価値観を尊重したサービスの提供

ICT (Information and Communication Technology) 「情報伝達技術」
IoT (Internet of Things) 「モノのインターネット」

2 「責任」
社会的責任と資質の向上

3 「地域交流」
地域から親しまれる施設

具体的取組 (令和4年度 重点方針)

- 1. 利用者一人ひとりの理解を深め、ニーズに応じたサービスの提供**
- (1) 多職種協働の包括的支援 (チームケアの充実)
 - ①利用者主体の生活の提供を目指した業務改善『私らしく安心して暮らせる住まいづくり』
 - ②「科学的介護情報システム (L I F E)」を活用した質の高いチームケアの実践
 - ③利用者の意向に沿ったケアプランの作成
 - ④ユニットケアの特徴を活かし、利用者個々を深く理解し共感する (第二鹿寿苑)
- 2. 利用者の満足度の向上**
- (1) 「苦情・要望」の積極的受入。共有と透明性、説明責任、「受付事例」の活用
 - (2) 利用者満足度調査の実施とその対応
- 3. 安全で安心して暮らせる環境の整備と感染予防をはじめとしたリスク管理の徹底**
- (1) 感染予防・食中毒防止 (『持ち込まない・持ち出さない・拡げない』) の徹底
 - (2) K Y T (危険予知トレーニング)、S H E Lモデルを活用した気づきの向上
 - (3) 「ひやりはっと」の分析と対応策の検討
 - (4) 防災意識の向上と訓練の実施 (火災、地震、水害想定)
 - (5) B C P (災害、感染症等発生時の事業継続計画) の策定
 - (6) 中長期計画に基づいたICT、IoTの導入とリニューアルにむけた検討

- 1. 人材育成「鹿寿苑職員としての責任と誇りを持ち、やりがいのある職場を目指す」**
- (1) 階層別 (新人・中堅・リーダー等) 研修の実施
 - (2) 中長期計画に基づいた職員育成プログラムの実施と資格取得の推進
 - (3) 自らテーマを決め、介護技術、相談援助技術の向上に取り組む
 - (4) 丁寧な言葉遣いを意識したより良い接遇の向上
 - (5) 高齢者虐待、身体拘束、スピーチロック (言葉の拘束) ゼロを目指す
 - (6) 心身ともに健康で働ける職場環境
 - ①メンタルヘルスケアの実施
 - ②介護機器 (超低床電動ベッド、リフト、トランスファーボード) の活用によるノーリフトケア (抱えない・持ち上げない) の実施による腰痛予防の推進
- 2. 信頼される施設経営**
- (1) 健全経営、効率的な施設運営 (確実なる稼働率の向上、経費削減)
 - ①確実なる稼働率の向上
 - ②光熱水費・消耗品等の経費削減の推進 (デマンド監視装置の活用・在庫管理の徹底)
 - ③中長期計画に基づいた経営状況の各職員への周知

- 1. 新しい生活様式に基づいた地域との関わり・地域貢献**
- (1) 地域ボランティアとの関係づくりの継続。福祉を目指す実習生の受け入れ
 - (2) 職員ボランティアの実施。認知症や介護を理解してもらうための地域貢献活動
 - (3) 広報誌・鹿寿苑ホームページを活用した情報発信

事業計画

《重点方針》

1. 利用者一人ひとりの理解を深め、ニーズに応じたサービスの提供

(1) 多職種協働の包括的支援（チームケアの充実）

- ① **利用者主体の生活の提供を目指した業務改善『私らしく安心して暮らせる住まいづくり』**
- ② **「科学的介護情報システム（L I F E）」を活用した質の高いチームケアの実践**
- ③ 利用者の意向に沿ったケアプランの作成
- ④ ユニットケアの特徴を活かし、利用者個々を深く理解し共感する（第二鹿寿苑）

2. 利用者の満足度の向上

- (1) 「苦情・要望」の積極的受入。共有と透明性、説明責任、「受付事例」の活用
- (2) 利用者満足度調査の実施とその対応

3. 安全で安心して暮らせる環境の整備と感染予防をはじめとしたリスク管理の徹底

- (1) 感染予防・食中毒防止（『持ち込まない・持ち出さない・**拡げない**』）の徹底
- (2) K Y T（危険予知トレーニング）、S H E Lモデルを活用した気づきの向上
- (3) 「ひやりはっと」の分析と対応策の検討
- (4) 防災意識の向上と訓練の実施。（火災、地震、水害想定）
- (5) **BCP(災害、感染症等発生時の事業継続計画)の策定**
- (6) **中長期計画に基づいたICT、IoTの導入とリニューアルにむけた検討**

4. 人材育成「鹿寿苑職員としての自覚と誇りを持ち、やりがいのある職場を目指す」

- (1) 階層別（新人・中堅・リーダー等）研修の実施
- (2) 中長期計画に基づいた職員育成プログラムの実施と資格取得の推進
- (3) 自らテーマを決め、介護技術、相談援助技術の向上に取り組む
- (4) **丁寧な言葉遣いを意識したより良い接遇の向上**
- (5) **高齢者虐待、身体拘束、スピーチロック（言葉の拘束）ゼロを目指す**
- (6) 心身ともに健康で働ける職場環境
 - ① メンタルヘルスケアの実施
 - ② 介護機器（超低床電動ベッド、リフト、トランスファーボード）の活用によるノーリフトケア（抱えない・持ち上げない）の実施による腰痛予防の推進

5. 信頼される施設経営

- (1) 健全経営、効率的な施設運営（確実なる稼働率の向上。経費削減）
 - ① 確実なる稼働率の向上
 - ② 光熱水費・消耗品等の経費削減の推進（デマンド監視装置の活用・在庫管理の徹底）
 - ③ 中長期計画に基づいた経営状況の各職員への周知

6. 新しい生活様式に基づいた地域との関わり・地域貢献

- (1) **地域ボランティアとの関係づくりの継続。福祉を目指す実習生の受け入れ**
- (2) **職員ボランティアの実施。認知症や介護を理解してもらうための地域貢献活動**
- (3) **広報・鹿寿苑ホームページを利用した情報発信**

I. 施設サービス課

1. 特 養（指定介護老人福祉施設 定員：90名） 稼働率目標：97.7%

『私らしく安心して暮らせる住まいづくり』

～穏やかに最期を迎えるまで～

(1) 生活相談

- ① 入居者・家族のニーズが充足できるような PDCA の確立
 - ア. ケアプランの作成（更新・定期評価・入居時・状態変化・看取り時等）
 - イ. カンファレンスの開催（更新・入居時・状態変化時・看取り等）及び会議内容の充実
 - ウ. 経過確認（計画・実施・評価・修正）
 - エ. 入居者及び家族との個別面談の実施・意向確認
 - オ. 科学的介護情報システム（L I F E）を活用したマネジメントの実践
- ② 家族、医療機関及び他関係機関との「信頼関係」の充実
 - ア. 家族会通信の発行や入居者からの写真付きメッセージの送付
 - イ. コロナ禍での家族とのよりよい面会様式の検討
 - ウ. 多職種で連携した家族への状態報告や家族からの相談の受け付け
 - エ. 医療機関や他関係機関との報告・連絡・相談の実施。
- ③ 稼働率を維持するための早急な新規入居への取り組み
 - ア. 入居申請者の受付及び入居検討委員会、順位決定までの説明
 - イ. 申請者、担当ケアマネジャーからの情報収集と連絡調整
 - ウ. 入居検討委員会の開催と、それに基づいた迅速な入居手続きの実施
 - エ. 入院者の状態把握の実施

(2) 介 護

- ① フルサービスの徹底による利用者主体のケアの実施
『フルサービス』
ハートフル：まごころのある、心温まるようなケアの実施
スマートフル：洗練された、気のきいた、丁度よいタイミングで
フルスマイル：最高の笑顔で
- ② 職員スキルのステップアップとユニット力の向上
 - ア. 業務内容の分析と標準化の実施
 - イ. 職員スキル表による育成計画の実施
 - ウ. チーム内による事例検討や勉強会の実施による『考える力』の向上
 - エ. ノーリフトケア（抱えない・持ち上げない）の推進
- ③利用者にとっての『私らしい生活』を考え、穏やかな生活への支援の実施
 - ア. 介護職としての専門性を活かした Q O L の向上を目指した質の高いサービスの提供

- イ. 利用者の状態等の日々の記録の充実
- ウ. 利用者の状態の変化に速やかに気づくことができる観察力をもち、多職種間の報連相を徹底することで、入院につながるリスクの軽減をはかる
- エ. 科学的介護情報システム（L I F E）を生かした質の高いケアの実践

（3）健康管理

①健康管理と異常の早期発見と早期対応

- ア. 嘱託医による往診や状態報告による異常の早期発見と対応
- イ. 健康診断・定期採血の実施。結果に応じた対応（家族への意向確認等）

②集団感染予防及び二次感染予防

- ア. 感染委員や多職種と連携を図り、集団感染防止に努める
- イ. 感染予防マニュアルに沿った対応の実施、教育、指導

③ 本人や家族が希望する看取りの充実と実現

- ア. 看取りの段階に応じ、多職種、家族を交えたカンファレンスの実施
- イ. 家族と本人が共有する時間を過ごせる環境整備（居室変更・状況に応じた面会等）
- ウ. 看取りパンフレットを活用し、家族の理解や不安の軽減に繋げる
- エ. 看取りについての勉強会の実施

④専門知識を提供し、多職種の共通理解へ繋げる

- ア. 経験年数に応じた教育・アドバイスの実施（緊急時対応・疾患）
- イ. 看護の研修内容の伝達学習や勉強会の実施
- ウ. 褥瘡ケア、口腔ケアを多職種で取り組み、状態低下予防に努める

2. 短期入所生活介護（ショートステイ定員：10名）

稼働率目標：4. 1人／日

『利用者の希望に添ったサービスの提供の実施』

①短期入所生活介護サービスの充実

- ア. 利用者・家族ニーズに添ったケアプランの作成・実施及び評価
- イ. 担当ケアマネジャーとの連携（利用状況の報告・計画変更の提案）
- ウ. 新型コロナウイルス感染予防に努めた受け入れの実施

3. 栄養管理

（1）給食管理：安心・安全な食事の提供 季節感ある美味しい食事の提供

- ① 衛生自主点検表やマニュアルの見直し
- ② 多職種連携による利用者に応じた食事の提供
- ③ 真空調理及び調理業務の見直し及び改善 盛り付けマニュアル作成
- ④ 感染症・食中毒発生時の献立見直し及び改善
- ⑤ 定期的な在庫管理、食品管理

- ⑥ 冷蔵庫等の機器の点検、異常時の対応
 - ⑦ 食費と食数の把握
 - ⑧ トロミサーバーの運用、特養職員との連携
- (2) 栄養管理：多職種連携による食事提供及び食事箋の発行
栄養ケアマネジメントの充実（特養）
- ① 科学的介護情報システム（L I F E）を活用した栄養ケアマネジメントの評価・見直し
 - ② 療養食加算、約束食事箋、食種別栄養所要量の見直し
 - ③ 食事形態の見直し
 - ④ 栄養士業務マニュアル見直し
- (3) 人事管理：職員の能力に合わせた指導、作業の見直し及び改善。職員の定着
- ① 目標の明確化 スキルアップ計画プラスの目標・実施・評価
 - ② 業務内容の標準化、マニュアル作成
 - ③ ウェブ研修会への参加、能登地区福祉栄養士との連携

II. 地域密着型施設サービス課

1. 第二鹿寿苑（地域密着型介護老人福祉施設 定員：29名）
稼働率目標：97.0%

『くらしいきいき、こころのびのび、いつもあなたと共に（基本理念）』

くらしいきいき : 今までの暮らしが続けられるようにします

こころのびのび : 地域と心をつなぎ、共に育んでいきます

いつもあなたと共に : 家庭的な雰囲気と共に過ごす時間を大切にします

- (1) 「ユニットケア」による充実したサービスの提供
- ① 職員一人ひとりがユニットケアの知識を身に着ける
 - ② 基本理念を共通理解する
- (2) 暮らしの継続の追求
- ① 多職種連携により「今までの暮らし」を継続できる体制の確立
 - ② 自律した暮らしの場を新たに作る
 - ③ 科学的介護情報システム（L I F E）を活用した質の高いチームケアの実践
- (3) 入居者・ご家族・職員の安心の関係作り
- ① 職員のユニット固定配置で細やかな関わりをもつことで、安心・信頼の関係をつくる
 - ② 家族との顔が見える関係作り
 - ③ コロナ禍での面会様式の検討、広報活動による情報の発信
- (4) 「いきいき」働ける職場作り
- ① 職員一人ひとりを認め、やりがいを感じ、各段階で「伸びる力」を高めるこ

とができる環境を作る

- ② 「スキルアップ計画書」を活用した目標設定と評価の実施
- ③ ユニット単位の「目標設定シート」を活用し、目標に向けてやりがいをもって取り組む

2. グループホーム(認知症対応型共同生活介護 定員：9名)

稼働率目標：98.0%

『生活の中に楽しみを見つけ、

その人らしく安心した生活が送れるように寄り添う住まいづくり』

- (1) 入居者・家族の想いが反映されたケアプランの作成とサービスの提供
 - ① 利用者をより深く理解するための情報の再収集
 - ② ケアプランの作成、モニタリングの実施
- (2) 「食」を楽しむ生活
 - ① 誕生食や、季節感を感じる行事食の充実によりコロナ禍でも楽しみを作る
- (3) 家族との信頼関係を深め、要望が言いやすい関係づくり
 - ① こまめな状態報告やご家族の希望の聴取
 - ② グループホームだよりの発行(毎月)とホームページでの状況発信
 - ③ アンケートによる意見の吸い上げ
- (4) 他部署との交流
 - ① 施設の特性を生かし、特養との交流、情報交換を図り、緊急時に備える
- (5) 職員の資質の向上
 - ① 認知症の理解を深め、自己啓発に努める
 - ② 定期的な勉強会の実施
 - ③ 感染予防対策の周知と実行

Ⅲ. 在宅サービス課

1. デイサービス(定員25名)

稼働率目標：21.0人/日

『利用者の自立支援を目指したサービスの提供』

利用者が「来てよかった、楽しかった」と思われるようなサービスを目指す

- (1) 利用者のニーズに応じたサービスの提供
 - ① 利用者により寄り添い、様々なニーズや価値観に合わせたサービスやケアプランに沿ったサービスの提供
 - ② 通所介護計画の作成と利用者・家族への説明及び実施と評価
 - ③ 本人、家族、介護支援専門員、関係事業所との連携を図り、個々のニーズに応じたサービスに努める

- (2) 利用者・家族への在宅生活支援事業
 - ① 家族介護者教室の開催（1回／年）
 - ② 健康講座（4回／年）、
 - ③ 栄養講座（2回／年）
 - ④ 法話の実施（随時）
 - ⑤ ホームページブログ（随時）
 - ⑥ 「ほほえみ」便りの発行（4回／年）
 - ⑦ 昼食の献立の配付
- (3) 科学的介護情報システム（L I F E）の導入による段階的な加算算定を目指す
 - ① 新規加算を見据えた研修会の受講、係内勉強会の実施。
- (4) 口腔体操と口腔ケアの実施
 - ① 昼食後の口腔ケア、食事前の口腔体操の実施で、健康に食べれる体づくり
- (5) 稼働率の達成
 - ① 迅速な空き情報の発信
- (6) 職員の資質の向上
 - ① 勉強会の実施（毎月）
 - ② 施設内外の研修会への参加
- (7) 新型コロナ感染予防の徹底
 - ① マスク着用の徹底
 - ② 消毒や換気の徹底
 - ③ ソーシャルディスタンスを保つてのサービスの提供状況の変化に伴い随時、内容を検討する

2. 訪問入浴介護

稼働率目標：4人／日（2回／週）

『利用者、家族との絆を大切にし、
状態に応じた安心、安全で喜ばれるサービスの提供』

- (1) 居宅介護事業所や家族、その他関係機関との連携を図り、情報共有によるサービスアップを図る
 - ① ニーズに応じた柔軟な対応と関係機関と連携を図り、看取りや重度の方の新規受け入れを継続する
- (2) 利用者や家族との信頼関係を築く
 - ① 家族の方の不安や相談を受け、アドバイスを行う
 - ② 看取りや重度の方など、個々に応じた安全・安楽な入浴の実施
 - ③ 家族の介護負担の軽減に努める
- (3) コスト意識を持って安定した事業の継続
 - ① 入浴車の安全管理（ボイラー点検、確認・設備点検、水タンク清掃）
 - ② 効率的な配車（日程調整）
 - ③ コスト削減への積極的な情報収集

- (4) 職員のスキルアップと業務改善を図り効率化を目指す
 - ① スキルアップを目指した毎月の勉強会の実施
 - ② タブレットの活用により記録時間の省力化を図る
 - ③ 業務のマニュアル化の見直し
- (5) 新型コロナ感染対策をはじめとしたさまざまな感染症への対策の徹底
 - ① 職員、利用者、家族の体調確認、職員の衛生管理、入浴者の衛生管理の徹底
 - ② 訪問看護等医療関係者との連携を図り、的確な感染予防に努める

3. 配食サービス

稼働率目標：7.0食／日

『中能登町「食」の自立支援事業に基づき、栄養バランスの摂れた食事の提供と確実な安否確認の実施』

- (1) 衛生管理を徹底し、利用者に喜んでもらえる食事の提供により栄養改善を図る
- (2) 安否確認と異常時の早期対応（関係機関との連携）
- (3) お弁当便りの発行（1回／月）

4. 居宅支援（居宅介護支援事業所）

ケアプラン計画作成目標：介護 115件／月

予防 22件／月

『利用者が自宅、地域において生き生きとした生活を送ることができるように、利用者の意思、その人らしさを尊重した居宅サービス計画の作成』

『誠意ある対応で、利用者及び他事業所から信頼される事業所を目指す』

- (1) 質の高いケアマネジメントの実施
 - ① 利用者、家族との信頼関係を築き、自立支援の理念に添ったケアプランを作成する
 - ② 事例検討、ケアプラン点検をおこない、課題分析力の向上を図る
 - ③ ケアマネ連絡会での事例検討の実施
 - ④ 介護支援専門員としての資質の向上を図る
 - ア. あじさい会（中能登町在宅医療介護連携を考える会）、ケアマネ協会等の研修会への参加及び伝達
 - イ. 専門誌の継続購読による情報の収集
 - ウ. 係内研修の実施
 - エ. 実習生の受け入れ
- (2) 住み慣れた地域での生活が継続できるように、地域との連携を強化し、ネットワークの一員として動く
 - ① コロナ感染防止の対応を取りながら地域のサロン等の活動に参加する。
 - ② あじさい会、キャラバンメイトの活動を通し地域の方々の理解を深める

③ 広報誌やブログを利用した情報の発信

(3) ケアプラン目標件数の達成

- ① 様々な方面からの新規を受け付け、安定した件数を維持する。
- ② ターミナル、困難事例を積極的に受け入れ関係機関との信頼関係の継続
- ③ 業務の効率化を図る

IV. 管理課

1. 庶務

正確で迅速な事務運営を行い、法人及び個々の健全な事業経営をサポートする

(1) 経常経費の節減

- ① 現況報告による周知の継続（課長会議・合同会議で1回/月）
- ② 共通消耗品の在庫管理
- ③ 経費節減案の提案
- ④ 光熱水費の節約

(2) 経営基盤強化サポートの実施

- ① 月次報告で予算執行状況や月次繰越金等を報告
- ② 職員への会計研修会の実施

(3) 労務管理

- ① 勤怠管理方法の見直しと検討

(4) 業務のマニュアル化

V. 各種委員会

1. 入居検討委員会

公正で透明な入居順位の検討及び決定

(1) 入居検討委員会の開催（適時）

2. リスクマネジメント委員会

日頃から事故分析を活用することで、事故の再発を防止し、軽減を図る

(1) 「事故・ひやりはっと」の分析と対応策の検討

- ① 報告書を集計、分析し、再発防止に努める

(2) KYT、SHEL モデルを活用した職員の気づきの向上

- ① 係内研修会の実施によりレベルの向上をはかる

(3) 委員による施設外（オンライン）研修の受講による新しい情報の周知と、職員への伝達の実施

3. 身体拘束廃止委員会

身体拘束ゼロ、スピーチロック（言葉の拘束）ゼロを目指す

(1) 職員全体への基本知識の周知と委員のスキルアップ

- ① 施設内研修の実施（年間2回）
- ② 外部研修への参加

(2) 身体拘束ゼロ、スピーチロックゼロについての意識づけをおこなう

- ① 毎日の唱和の継続
- ② アンケートによる現状把握と検討

4. 高齢者虐待防止委員会

高齢者虐待ゼロを目指す

(1) 職員への周知

(2) 指針に基づく活動の実施

5. 広報委員会

広報誌・ホームページを通じた、地域の方々への情報発信と地域貢献を図る
事業所の雰囲気や伝わるような情報を発信し、地域の方の理解を深めてもらうととも
に就職希望者へのアピールの実施

(1) 「鹿寿苑だより」の発行（2回/年：6月・12月）

- ① 見やすい、伝わりやすい、わかりやすい紙面づくり
- ② 家族が「入居者に会えたような気持ちになる」広報誌を目指す

(2) ホームページの積極的な活用

- ① 法人の情報、告知などタイムリーな更新をおこなう
- ② ブログは各セクションからの日常のひとコマをアップする
- ③ 「先輩の声」、職員募集要項など就職サイト内の充実
- ④ 職員への定期的なアクセス数の公表とブログへの積極的投稿の呼びかけ

6. 地域交流委員会

地域から親しまれる施設づくり

(1) 新しい生活様式に基づいたボランティアとの関わり

(2) ボランティア活動に対する職員の意識向上

- ① 職員ボランティアの実施

7. 接遇委員会

丁寧な言葉遣いを意識した良い接遇を目指す

(1) 苑内研修の開催

- ① 電話対応に焦点を当てた研修の実施

(2) 自己評価の実施

(3) 挨拶の唱和の見直し2回/年により、意識づけの向上

8. 感染予防委員会

職員の感染防止意識を高め、新型コロナウイルスを含めた集団感染防止に努める。

- (1) 基本的な感染予防対策の習慣化 (『持ち込まない・持ち出さない・拡げない』)
 - ① 手洗いの徹底
 - ② 換気の徹底
 - ③ アルコール消毒の習慣化
 - ④ 環境整備 5S (整理・整頓・清潔・清掃・習慣) の徹底。
- (2) 職員教育による感染予防に対する意識の継続と、主体性と応用力を養う
 - ① 職員が感染源にならないための生活習慣の徹底
 - ② 小さなステップでの目標設定の実施。数値化による成果の提示
 - ③ ゾーニングなどシュミレーションの実施により応用力を養う
 - ④ セクション毎の研修会の実施
 - ⑤ 感染予防に関する情報提供
- (3) 感染発生時に備えた体制作りの強化
 - ① 各感染マニュアルの整備・見直し
 - ② BCP策定に向けた基盤づくり

9. 安全衛生委員会

職員が安心して働くことができる職場づくり

労働安全法や労働基準法などの法令を順守し、労働環境を守る

- (1) 安全衛生管理計画の策定・実施
 - ① 健康診断の実施
 - ② 集団感染の予防
 - ③ 交通安全
 - ④ メンタルヘルスの取り組み
 - ⑤ メンタルヘルスの現状分析
 - ⑥ 職場環境アンケートの実施
 - ⑦ 腰痛予防対策の実施
- (2) 安全衛生管理自主点検の実施
 - ① 労働基準監督署への報告

10. 研修委員会

一人一人の資質の向上を図り、組織力を高める

鹿寿苑の職員としての自覚と誇りを持ち、心身共に健康に働ける職場環境を作る

- (1) 人材育成の実施 (新人研修、キャリアパス対応生涯過程研修)
 - ① スキルアップ計画を基本に、評価の実施。面談技術の向上
 - ② 職員育成プログラムに沿った新人職員の育成
- (2) 専門職としての知識、技術の向上 (介護力・相談援助技術)
 - ① 派遣研修、施設内研修、係内研修それぞれの利点を活かした研修の実施
 - ② 委員会主催の施設内研修への助言、協力

(3) 腰痛予防やメンタルケアを通して、職員が心身ともに健康に働ける職場づくり

1 1. 防災委員会

施設における利用者の安全確保、防災環境の整備及び火災・震災その他の災害の予防を図る

防災意識の理解と向上を図る

(1) 防災計画

- ① 利用者の人命安全対策
- ② 自衛消防隊の編成及び運営
- ③ 火災予防及び防災対策
- ④ B C P 策定に向けた基盤づくり

(2) 予防管理対策

- ① 予防組織（火元責任者の配置・自衛消防隊の編成）
- ② 防災設備等の自主点検（1回／月）
- ③ 専門業者による防災設備及び消火設備の点検（2回／年）

(3) 防災教育及び訓練、防災設備等の取扱いの理解

- ① 総合訓練（日中火災想定・夜間火災想定・第二鹿寿苑のみの夜間火災想定・日中災害想定）
- ② 通報訓練（鹿寿苑・第二鹿寿苑）
- ③ 消火訓練
- ④ 防災設備及び消火設備（スプリンクラー・消火器等）の取扱い指導
- ⑤ シェイクアウトいしかわ（防災訓練）の参加
- ⑥ 防災研修

(4) 地域、町との連携強化

- ① 西馬場地区との連携
- ② 福祉避難所としての受け入れ体制の整備

1 2. 中長期計画実行委員会

鹿寿苑中長期計画の決定及び実施

- (1) 人材育成部会、リニューアル部会の中長期計画書の決定及び実施
- (2) 中長期計画書に基づいた令和4年度の計画の実施、評価、修正の実施

1 3. 苦情解決組織

「苦情・要望」等の積極的な受け入れと対応

(1) 苦情の積極的受け入れ

- ① 職員間の共有と説明
- ② 対応策の検討
- ③ 内容の公表（苑内掲示、広報紙）

1 4. 家族会事務局（特養・グループホーム・第二鹿寿苑）

利用者家族との連携及び親睦を図り、利用者サービスの向上を図る。

- (1) コロナ感染状況に応じた家族会総会・家族会行事の企画
- (2) 家族会通信の発行

15. 人事考課

人事考課による人材育成

- (1) キャリアパスによる職員育成を考慮した目標達成評価（スキルアップ計画）
- (2) 階層別の自己評価表を用いた人事考課の実施

V. 情報の公表

法人の業務及び財務状況やサービス内容・苦情等の内容及び結果・対応策等を閲覧や「鹿寿苑だより」「鹿寿苑ホームページ」により、情報開示を行う

VI. 年間行事

	特別養護 老人ホーム	グループホーム	デイサービス	第二鹿寿苑
4月	花見	花見	お花見会	花見
5月	野菜・花の苗植え			
6月			運動会	
7月	七夕	七夕		七夕
8月	追悼法要 花火大会		夏祭り	花火大会
9月	敬老会	敬老会	敬老会	敬老会
10月	焼き芋			運動会
11月				
12月	クリスマス会	忘年会	忘年会・クリスマス会	クリスマス会
1月	新年会	お楽しみ会	かきぞめ	新年会 書初め
2月	節分	節分		節分
3月	ひな祭り 感謝祭	ひな祭り	感謝の集い	ひな祭り
備考	誕生会（誕生日） 生花クラブ（月2回） ドライブ（随時）	誕生会（毎月） 外出等（随時）	健康・栄養講座 法話 ドライブ（随時）	ドライブ （随時） マンスリーサー クル（年6回）

VII. 各種会議

会議名	回数
職員会議	2回／年
合同会議（係代表者会議）	1回／月
課長会議	1回／月
入居者ケース会議	2～3回／週
各係会議	1回／月
フロアー会議	1回／月
主任・副主任・リーダー会議	1回／月
多職種会議（特養・第二）	1回／月
運営推進会議（グループホーム・第二）	1回／2ヶ月
その他臨時会議	適時